

**(1) 医師が診断した、“出席停止証明書・登園許可書”が必要な感染症**

病名	潜伏期間	感染しやすい期間	主な症状	登園のめやす
インフルエンザ	1～3日	感染後約10日	高熱、関節痛、全身倦怠、咳、 咽頭痛、吐き気、鼻水	発症後5日を経過し、 かつ解熱後3日を経過してから
百日咳	2～3週間	感染後3週	発熱、激しい咳、粘っこい痰	特有の咳が消失し、5日を経過し、 かつ全身状態が良好になるまで
はしか(麻疹)	2～3週間	発症1日前から発疹出現 の後4日後まで	全身赤い発疹、耳の後ろ・ 首のリンパ腺の腫れ、 白目が赤くなる、発熱、咳	発疹に伴う熱が下がった後 3日を経過し元気が良い時
おたふくかぜ (流行性耳下腺炎)	2～3週間	発症3日前から耳下腺腫 脹後4日後まで	発熱、耳下腺・ 顎の下の腫れと痛み	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫れが 現れた後5日を経過し、 かつ全身状態が良好になるまで
3日はしか(風疹)	2～3週間	発疹出現の前後5日間	かゆみに伴う発疹、発熱、 リンパ節の腫れ、目の充血	発疹が消失してから
水ぼうそう(水痘)	2～3週間	発症2日前からかさぶた ができるまで	軽度又は中度の発熱・発疹 →水痘→かさぶた種々の 時期の発疹が混在	すべての発疹が かさぶたになってから
プール熱 (咽頭結膜炎)	5～7日	急性期の数日間	発熱、目の充血、めやに、 まぶたの腫れ、咽頭炎	解熱し、症状が消えてから 2日を経過してから
流行性結膜炎	5～12日	急性期の数日間	結膜の炎症、軽熱、 めやに、流涙	治癒するまで
結核	1～2ヶ月		咳、痰、発熱	医師が伝染のおそれがないと 認めるまで
髄膜炎菌性髄膜炎	2～4日		発熱、頭痛、嘔吐、不機嫌、 けいれん、意識障害	医師が伝染のおそれがないと 認めるまで
急性出血性結膜炎	1～3日	ウイルスが呼吸器から1 ～2週間、便から数週間 ～数ヶ月排出される	眼痛、めやに、目の充血、 まぶたの腫れ	医師が伝染のおそれがないと 認めるまで

## 「2」 医師の診断を受け、保護者が記入する“登園届”が必要な感染症

病名	潜伏期間	感染しやすい時期	主な症状	登園のめやす
溶連菌	2～4日	適切な治療を開始する前と開始後1～2日間	発熱、咽頭熱、扁桃腺炎、発疹、いちご舌	有効治療を始めてから24時間以上経っていること
マイコプラズマ肺炎	14～21日	適切な治療をする前と開始後数日間	発熱、咳、ときに発疹、呼吸困難(重症時)	症状が消失し、元気であれば登園可能
手足口病	3～5日	急性期の数日間	軽い発熱1～3日間、手足口に水を持った疹	発熱や重症の口内炎がなく、普段の食事ができること
伝染性赤斑(りんご病)	17～18日	発症前の1週間	顔面に赤斑 特に頬部の赤斑性発疹	元気がよければ登園可能
乳児嘔吐下痢症(ロタ・ノロ・アデノウイルスなど)	症状のある間と、症状消失後1週間(量は消失していくが数週間はウイルスを排泄しているので注意が必要)		発熱、下痢、嘔吐、酸味の強い白色水様便	嘔吐から24時間経過し主な症状が消滅してから
RSウイルス感染症	2～8日	呼吸症状のある間	発熱、鼻汁、咳、喘鳴、呼吸困難	呼吸器症状が消失し全身症状が良いこと
突発性発疹	約10日	発熱時	高熱、3日後に全身に発疹	主治医が登園に差し支えないと認めたとき
ヘルパンギーナ	2～5日間	発病後数週	発熱、咽頭・口蓋に水疱 喉の痛み	主治医が登園に差し支えないと認めたとき
伝染性膿痂疹(とびひ)	2～10日	水疱消滅まで	顔や手足に米粒大の発赤・水疱→浸出液から皮膚にうつる	他人への感染のおそれがないと医師が認めたとき
ヘルペス性菌肉口内炎	2日～2週間		口内炎症	症状が改善し元気であれば登園可能
伝染性軟属腫(水いぼ)	14～50日		球状のいぼ数個～数十個集簇	浸出液が出ている時は被覆していること
頭ジラミ	10～14日	発症から駆除開始数日間	頭髮に虫体・卵	駆除を開始していること